

国際派小児科医が語る子育てと社会の話シリーズ

第3回 「教育熱とこれからの仕事」の話



日本と同様に、少子化が進んでいるアジアとヨーロッパですが、「教育熱」には温度差があります。加熱する受験競争の中で、心身のバランスの変調をきたす場合も増えています。また、均質的な教育方針から外れていく子どもたちの中に、ちょっとした工夫でその力が十分に発揮できる場合も多くあることもわかってきました。

一方で、加熱する教育熱の背景には、将来安定した仕事を持てるように、という親としての思いがあります。仕事を探している人と、働き手が足りないとされている産業のミスマッチも起きてい

ます。新型コロナウイルス感染症流行や、高齢者の社会参加の現場などから、求められている仕事は「仕事の管理者」ではなく、「現場の働き手」であることもわかってきました。

いつ教育を受け、いつ仕事をして、いつ子育てをするのか、長い人生の中で柔軟に選択をするような時代になってきました。こんな近未来の仕事のあり方から、どんな教育が必要なのか、という視点も必要かもしれません。

教育熱の話から、これからの仕事のあり方について一緒に考えてみませんか。

世界を舞台に活躍してきた小児科医、森 臨太郎さん。

“いのち”を守り、いつくしみつつ次につなげるために語ります。

深刻な問題も国際的に視野を広げて考えてみると解決の糸口がつかめるような・・・
目からウロコ、の話をシリーズでお届けします。 (中川智子前宝塚市長)

講師

もり りんたろう
森 臨太郎 さん

一般社団法人 社会政策コレクティブ：スペース代表

大阪大学大学院医学系研究科次のいのちをまもる人材育成教育研究センター：特任教授

京都大学大学院医学研究科：客員教授 関西学院大学国際公共政策：客員教授

1970年神戸市生まれ、
六甲学院中学・高等学校

(46期)、岡山大学医学部卒。

1995年の阪神淡路大震災での医療ボランティア経験から、地域の医療制度に関心を持ち、淀川キリスト教病院で研修後、瀬戸内海の都市・村落部を手始めに、オーストラリア、ネパール、英国などで小児科医師として診療に従事。ロンドン大学公衆衛生修士取得後はブレア政権保健医療改革の一環として保健省下組織で母子保健・福祉の政策立案に携わる。

2008年に帰国後は、国立成育医療センター政

策部長などを歴任して国の母子保健・福祉・少子化政策にかかわった。

2018年から5年間は国連人口基金の地域アドバイザーとしてアジア太平洋地域の少子高齢化対応策を担当した。

2023年末に再度帰国して、地域に根差した社会政策支援の国際組織を立ち上げた。

日英両国の小児科専門医博士(医学)。宝塚市在住。著書に「持続可能な医療を創る」(岩波書店)、「イギリスの医療は問いかける・良きバランスへ向けた戦略」(医学書院)など。

日時

2024年 7月18日(木) 午後2時～4時30分

場所

宝塚市立男女共同参画センター・エル TEL:0797-86-4006 学習交流室1AB
JR・阪急宝塚駅下車すぐの「ソリオ2」4階

* 申し込み不要・資料代 500円(当日お支払いください) 自由にご参加ください。*
(障がい者・学生 無料)

主催：つなぐいのちを考える会
後援：宝塚市教育委員会

連絡先：090-1909-0203